

第4章 重点取組項目

実施項目のうち、特に重点的に取り組み、積極的に実施していくものを以下のとおり定めます。

1. 市民の文化芸術活動支援

市民の文化芸術活動が広がり盛んに行なわれている一方で、さまざまな課題に直面し、継続することが困難になる団体も少なくありません。今後も文化芸術を身近に感じ、活発に参加できるように、市民の自主的な文化芸術活動を支援していきます。

2. 学生・若者・障害者等の文化芸術活動への参加促進

財団が主催する事業に、小中学生のための親子割引席や学生割引席を積極的に設定したり、中高生のためのワークショップ事業や市民オペラ公演の公開リハーサルへの招待を行ったりと、誰もが参加しやすい事業を展開します。

また、市と連携協定を締結している国立音楽大学や、近隣の美術大学、市内の中学校及び高等学校等と連携し、若者の文化芸術活動への参加を促進します。

障害者が文化芸術活動に参加しやすい環境の整備を進めると同時に、障害の有無、性別、年齢等の差別なく、誰もが文化芸術活動に参加できる機会の提供を促進します。

3. 文化財・伝統文化の継承、市史の編さん

市内に存在する貴重な文化財を法令に基づいて保存・保護するとともに、それらを活用して将来のまちづくりにつながるような体験講座や企画展などを開催し、公開に努めます。

また、立川市の歴史的変遷を明らかにし、次世代に伝えていくために「新編 立川市史」の編さんを進め、編さんに伴い収集した資料や市民から寄贈された資料の整理や保管、効果的な活用及び公開方法等について、検討を進めます。

4. 多様な主体や他の分野との連携・交流の促進

文化芸術には、大人と子ども、プロフェッショナルとアマチュア、企業と市民団体など、多様な主体があるほか、音楽や美術、演劇など、さまざまな分野があります。財団を中心に、市やまちづくり協議会などが、それらを連携させる機会を設け、交流を進めます。

また、文化芸術を独立した概念ではなく社会に欠かせない資源として捉え、産業や生活、教育などと結び付けていくとともに、その結び付きや交流が促進される環境を充実させます。

第5章 実施項目

4つの取組方針に基づき、それぞれ以下のとおり実施項目を定めます。

I ふれる、たのしむ ～暮らしの中に文化芸術を感じることでできる環境をつくる～

市民の文化活動が活発化し、継続できる環境づくりを進めるとともに、鑑賞者として、暮らしの中で自然に文化芸術に触れ、楽しむことができるよう取り組みます。

これまでの主な取組
<ul style="list-style-type: none">●立川駅西地下道の壁面をさまざまな方との協働でアート化しました。●市民文化祭や地域学習館まつり、立川市民オペラやたちかわ演劇祭、立川いったい音楽まつり等、さまざまな市民参加・企画型イベントを支援してきました。●財団が、たましん RISURU ホールで芸術性の高い音楽や演劇等を鑑賞する場を提供するとともに、「どこでもステージ」として市内各所に出向いてコンサートや落語会等を実施してきました。●市・財団・たちかわ創造舎の3者で立川シアタープロジェクトを結成し、質の高い演劇作品・演劇空間の創造と発信を目指した活動を行ってきました。●文化芸術活動の拠点として、たましん RISURU ホールや子ども未来センターの整備をしました。●民間事業者に新設・既存施設へのアート作品の設置等を呼びかけてきました。

現状と課題
<ul style="list-style-type: none">●市民参加・企画型イベントの継続、発展が望まれています。●市民が質の高い文化芸術に触れる機会を継続して創出していくことが必要です。●民間施設及び公共施設の文化的活用の推進等が求められています。

実施項目
<p>1. 文化芸術の活動やイベントの充実</p> <p>①市民の文化芸術活動支援【重点取組項目】</p> <ul style="list-style-type: none">・市民文化祭や地域学習館まつりなど、市民の自主的な活動を支援します。・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした文化芸術活動を支援します。 <p>②文化芸術イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none">・立川市民オペラや立川いったい音楽まつりなど市民共創型イベントを実施します。・たましん RISURU ホールをはじめ、市内各所にある文化的施設を活用し、市民の身近な場所で質の高い文化芸術事業を展開します。 <p>2. 文化芸術の活動や発表の場の充実</p> <p>①市内公共施設や公共スペースの活用</p> <ul style="list-style-type: none">・たましん RISURU ホール、女性総合センターホール、子ども未来センター、たちかわ創造舎等、公共施設の文化芸術活動への活用を推進します。 <p>②民間施設の文化芸術活動への活用推進</p> <ul style="list-style-type: none">・民間の新設・既設施設に向けて、文化芸術活動への活用やギャラリー等の整備、アート作品の設置や展示等を働きかけます。

成果指標	基準値 平成 25(2013) 年度	現状値 平成 30(2018) 年度	目標値 令和 6(2024) 年度
日ごろから文化芸術に触れる機会がある市民の割合	38.4%	46.1%	52.0%
財団が展開する文化芸術事業への来場者数	47,500 人※	73,640 人	81,000 人
たましんRISURUホールと子ども未来センターの来場者数	701,044 人※	793,211 人	830,000 人
市民文化祭、地域学習館まつり来場者数	30,807 人	29,031 人	35,000 人

※平成 26(2014) 年度の値を使用(平成 25(2013) 年度はたましん RISURU ホールの休館期間があったため)



立川市民オペラ



立川いったい音楽まつり



たましん RISURU ホール



子ども未来センター広場

Ⅱ はぐくむ、ささえる ～子どもや若者の感性を育む、アーティストを支援する～

だれもが文化芸術に触れる場や機会を充実させるとともに、アーティストやボランティアなど文化芸術活動のつくり手や支え手の人材育成・支援に取り組みます。

これまでの主な取組

- 市・財団がファーレ立川アート鑑賞教室や小学校訪問事業、キッズワークショップ等を実施したほか、立川シアタープロジェクトではクリスマスに大人も子どもも楽しめる演劇公演を実施、子ども未来センターでも子どもを対象にした文化芸術イベントが実施される等、子どもが主体的に文化芸術に関わる場・機会を提供しました。
- ロビーコンサート¹¹、多摩フレッシュ音楽コンサート、たちかわアートギャラリー展、国立音楽大学アイムコンサート¹²など、アーティストやアーティストを目指す若者が作品等の成果を発表する場・機会を創出してきました。
- 武蔵野美術大学、アール・ブリュット作家、小・中学生などの参加・協働により、立川駅西地下道アート化事業に取り組みました。
- まちづくり協議会が文化芸術を支えるボランティアを育成し、活躍する機会を提供しました。
- アール・ブリュット立川実行委員会による「アール・ブリュット立川展」が市内各所で開催されました。

現状と課題

- 障害者の文化芸術活動への参加を推進するよう、理解を深め、環境を整備することが必要です。
- 若い世代の文化芸術への関心を高めるため、学生や若者たちに文化芸術活動へ積極的に関わるよう働きかけをすることが必要です。
- 活動の場や表現の機会を増やすなど、アーティスト等への支援を充実させることが必要です。
- アーティスト等の活動を支援し、市民と文化芸術活動をつなぐ人材やボランティアの育成が求められています。

実施項目

1. だれもが文化芸術に触れる機会の創出

①子ども対象文化芸術事業の充実

- ・小学校のファーレ立川アート鑑賞教室やたましん美術館での中学校美術鑑賞教室、小中学校への訪問事業などの芸術鑑賞事業、キッズワークショップ等の体験型事業等、子どもの感性を育む事業をより充実させます。

②学生・若者・障害者等の文化芸術活動への参加促進【重点取組項目】

- ・市・財団が展開する事業を通して、各教育機関と連携し、若者の文化芸術活動への参加を促進します。同時に障害の有無、性別、年齢等の差別なく、だれもが文化芸術活動に参加できる機会を創出します。

¹¹ ロビーコンサート：RISURU ホール市民ロビー、市役所多目的プラザにて月1回行われる無料のコンサート。市民の鑑賞機会の提供とともにアーティストの発表の場としても開催されている。

¹² 国立音楽大学アイムコンサート：立川市と国立音大との連携協定事業の一つとして実施。女性総合センターアイムのアイムホールにて年に4回程実施している。

2. 文化芸術の担い手の支援

①文化芸術を支える人材・ボランティアの育成

- ・講座等を開催してボランティアを育成するとともに、さまざまな文化芸術活動やイベント等に支え手として関わることのできる場・機会を積極的に提供します。

②アーティスト活動の支援

- ・子ども未来センターやたちかわ創造舎等の活動の場や市及び財団の事業を通しての発表の機会を提供するとともに、文化芸術のまちづくり事業補助金等を活用して、アーティスト等を支援していきます。

成果指標	基準値 平成 25(2013) 年度	現状値 平成 30(2018) 年度	目標値 令和 6(2024) 年度
財団が展開する子ども対象事業と子ども未来センターの文化芸術支援事業の参加者数	2,999 人※	9,012 人	10,000 人
文化芸術活動ボランティア登録者数	101 人	139 人	160 人
財団が展開する事業のうち学生による公演数(累積)	35 回	145 回	260 回
文化芸術のまちづくり補助金補助対象事業数(累積)	36 事業	65 事業	100 事業

※平成 26(2014) 年度の値を使用(平成 25(2013) 年度はたましん RISURU ホールの休館期間があったため)



アートサポーター養成講座



キッズワークショップ



水曜コンサート



アール・ブリュット立川展

Ⅲ つたえる、とどける ～文化芸術の意義を伝えていく～

文化芸術活動の継続的発展やまちの魅力向上を目指し、文化芸術に関する情報の積極的な発信、文化財保存や伝統文化の継承支援等に取り組めます。

これまでの主な取組

- ホームページや広報紙、SNS 等さまざまな媒体を通して、立川の文化芸術に関する情報を発信してきました。
- よいと祭りをはじめとした文化継承に関わるイベントを支援してきました。
- 立川の歴史を次世代へ継承するため、「新編 立川市史」の編さんに着手しました。
- 文化財登録数の増加や文化財の適正保存に取り組むとともに、歴史民俗資料館等でこれらに触れる機会を設けてきました。

現状と課題

- 立川ならではの文化芸術の魅力を生かし、国内外に向けて、シティプロモーションにつながる戦略的な情報発信等が必要です。
- 受け継がれてきた地域の歴史や文化財、伝統行事などの伝統文化を次世代に継承していくことが必要です。
- 立川市史編さんに伴い収集した資料等の保存や活用方法の検討が課題となっています。



立川まんがぱーく



歴史民俗資料館・常設展示室



ファール立川アートツアー



市史編さん広報紙「たちかわ物語」

実施項目			
1. 文化芸術を活用し、広く発信する取組 ①文化芸術資源を生かしたシティプロモーションの展開 ・世界的に評価されているファール立川アート、まんが・アニメをはじめとするサブカルチャー等、立川ならではの文化芸術を積極的に活用し、発信することでまちの魅力を高めるとともに、文化芸術活動の活性化を図ります。 ②事業者・民間イベント等との連携 ・グリーンスプリングス等の民間施設や民間イベントなどとの効果的な連携を進めます。 ・よいと祭りをはじめとする文化継承に関わるイベントを継続的に支援していきます。			
2. 文化財・伝統文化を伝え、生かす取組 ①文化財・伝統文化の継承、市史の編さん【重点取組項目】 ・立川市の歴史的変遷を明らかにし、次世代に伝えていくために「新編 立川市史」の編さんを進めます。 ・学校等との連携により、子どもたちが郷土の伝統を学ぶ機会を確保し、伝統文化の継承を図ります。 ②文化財・市史編さん資料の保存・活用方法の検討 ・文化財の登録・指定、保存のための助成を行うとともに、地域の歴史や伝統文化に触れる機会の充実を図ります。 ・市史編さんに伴い収集した資料や市民から寄贈された資料の整理や保管、活用及び公開方法等について、検討を進めます。			
成果指標	基準値 平成 25(2013) 年度	現状値 平成 30(2018) 年度	目標値 令和 6(2024) 年度
ファール立川アートツアー参加者数※	1, 811 人	2, 311 人	2, 700 人
ファール立川アート管理委員会ホームページアクセス数（年間）	11, 619※※	31, 778	35, 000
立川市地域文化振興財団ホームページアクセス数（年間）	181, 609	149, 976	165, 000
歴史民俗資料館収集資料点数	13, 119 点	16, 589 点	17, 200 点

※ファール倶楽部¹³が主催するアートツアーの参加者を含む。

※※平成 27(2015) 年度の値を使用(平成 27(2015) 年度に開設したため)。

¹³ ファール倶楽部：平成 9(1997) 年に設立したボランティアグループ。ファール立川アート作品の清掃、アートガイドツアー活動等を行っている。

Ⅳ つなげる、ひろげる ～文化芸術の波と輪を広げていく～

文化芸術活動の発展を目指し、さまざまな連携とネットワーク化等に取り組みます。

これまでの主な取組
<ul style="list-style-type: none"> ●立川市民オペラや立川いったい音楽まつりなど市民共創型イベントで、財団が事務局として出演者と地域をつなぎました。 ●まちづくり協議会を支援し、文化芸術に関わる団体間のネットワーク構築に努めました。

現状と課題
<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくり協議会が、市内の企業や関係団体間のネットワークづくりを進めています。 ●さまざまな団体や市民とアーティストがつながることができる環境が必要です。

実施項目			
1. 文化芸術のネットワークを広げ、つなげる取組 <ul style="list-style-type: none"> ①多様な主体や他の分野との連携・交流の促進【重点取組項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・財団を中心に、市やまちづくり協議会などが文化芸術をつなぐ役割を担い、多様な主体や他の分野が連携・交流を図ることができる場や機会づくりに取り組みます。 ②文化・芸術に関わる情報のプラットフォームづくり <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会を継続的に支援し、文化芸術に関わる団体間のネットワーク構築、情報発信に努めます。 			
成果指標	基準値 平成 25 (2013) 年度	現状値 平成 30 (2018) 年度	目標値 令和 6 (2024) 年度
立川いったい音楽まつり応募団体数	126 団体	357 団体	500 団体
まちづくり協議会ホームページアクセス数（年間）	3, 411	7, 071	10, 000



まちづくり協議会自主イベント



いったい音楽まつり打合せ風景

第6章 計画の推進体制

「第1章(5)対象と役割分担」で記載したとおり、市民、文化団体、教育機関、企業等(以下「市民等」という)や市・財団、まちづくり協議会がそれぞれの役割を果たしつつ、連携・協働して文化芸術の振興を推進していきます。

また、計画を着実に推進していくために、進捗状況の把握や各取組の検証・評価等を行います。

1. 市民等による進行管理

本市では立川市文化振興推進委員会(以下「推進委員会」という)を設置しています。推進委員会は学識経験者、文化団体関係者、公募市民等の計10人で構成され、計画の推進に関するもののほか、文化芸術の振興に係る事項について情報交換や協議等を行っています。推進委員会を定期的に開催し、各取組の進捗確認や評価を実施します。

2. 庁内連携による計画推進

本市では行政のあらゆる分野に文化の視点を取り入れ、文化行政を総合的に推進するため、庁内組織として市長を会長とする立川市文化行政推進会議(以下「推進会議」という)を設置しています。文化芸術の振興に関する施策が効率的・効果的に実施されるよう、推進会議を活用して課題や情報の共有を図るとともに、庁内で連携して取組を進めます。

3. 計画や取組の周知

計画を含め、本市の文化芸術の振興について、文化芸術活動の担い手である市民等に広く周知を図るため、広報やホームページ、SNS等の媒体や各種事業を通じて、情報発信・広報活動を行います。



文化振興推進委員会

